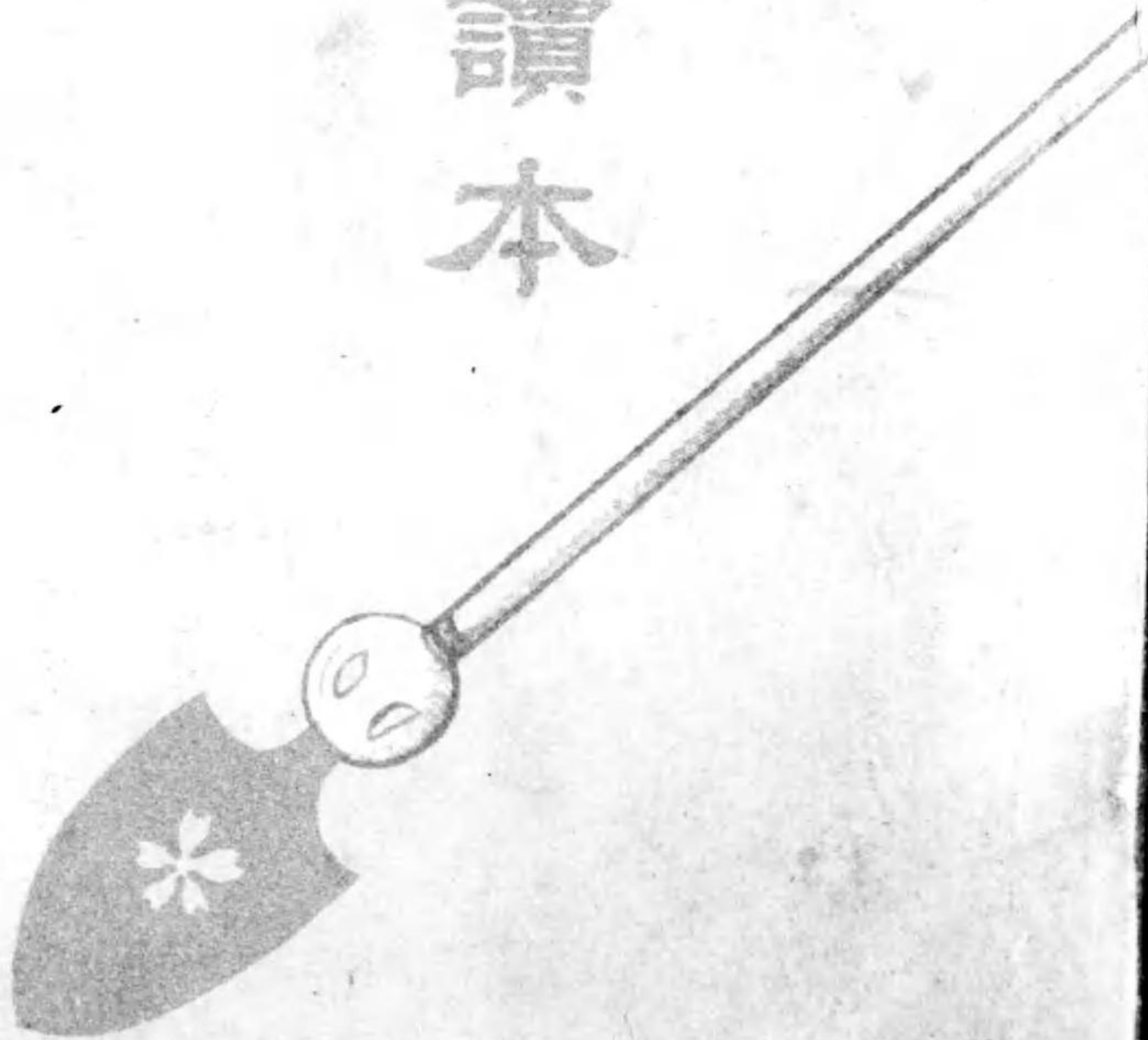


特100

162

利殖的
成金讀本



始



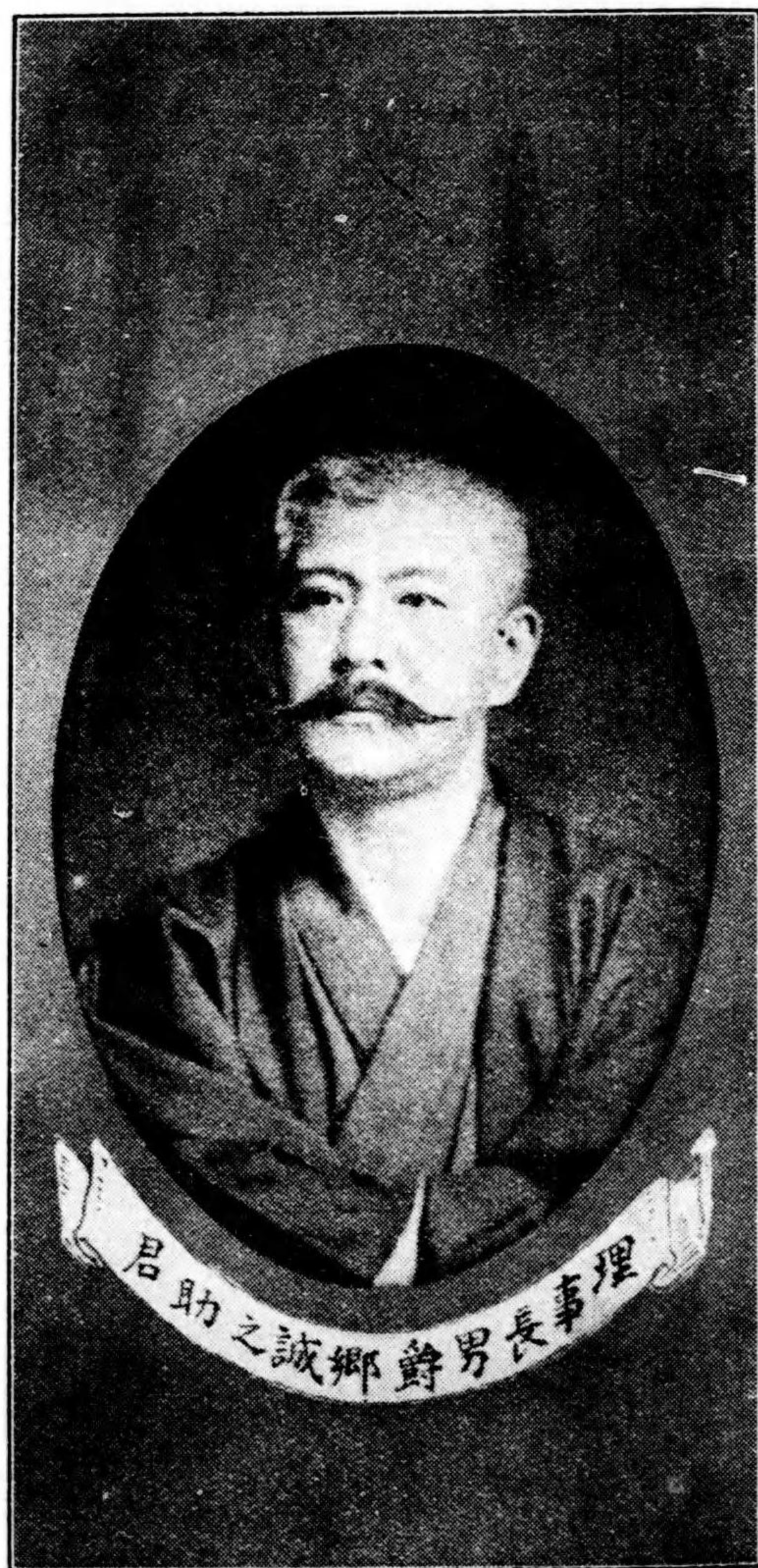
持100
162

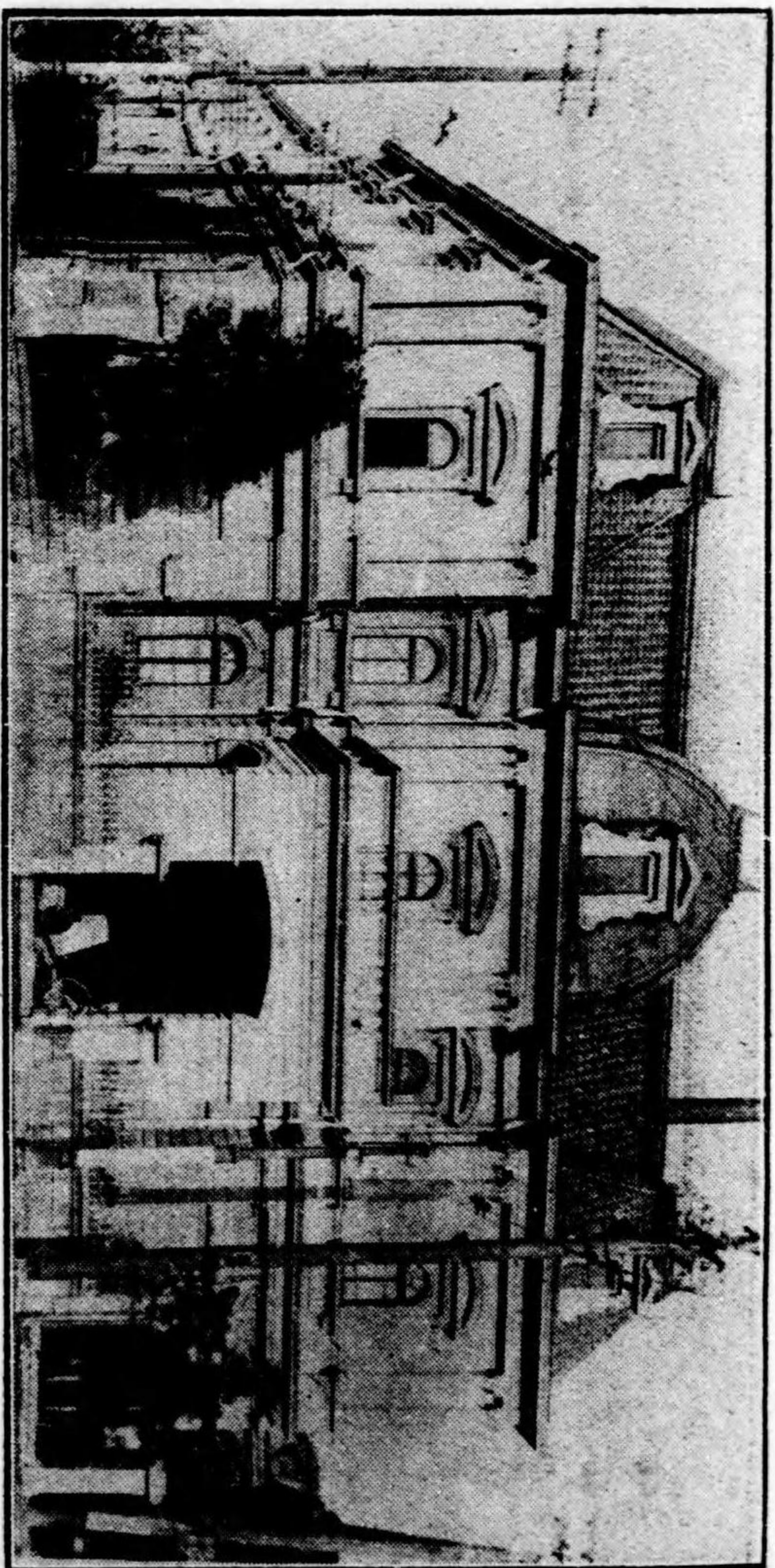


金讀本

桐生屋株式店調査部編纂

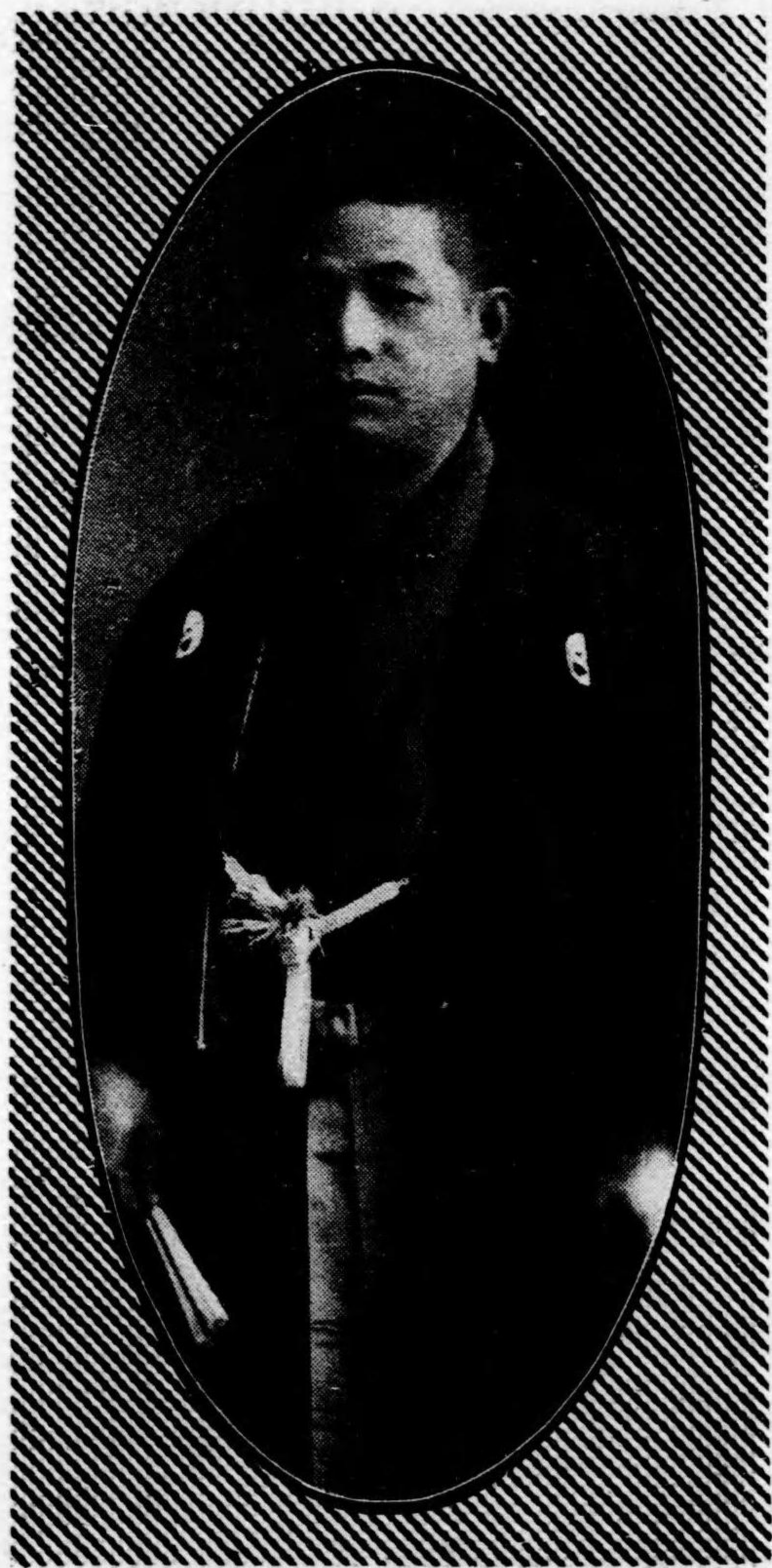




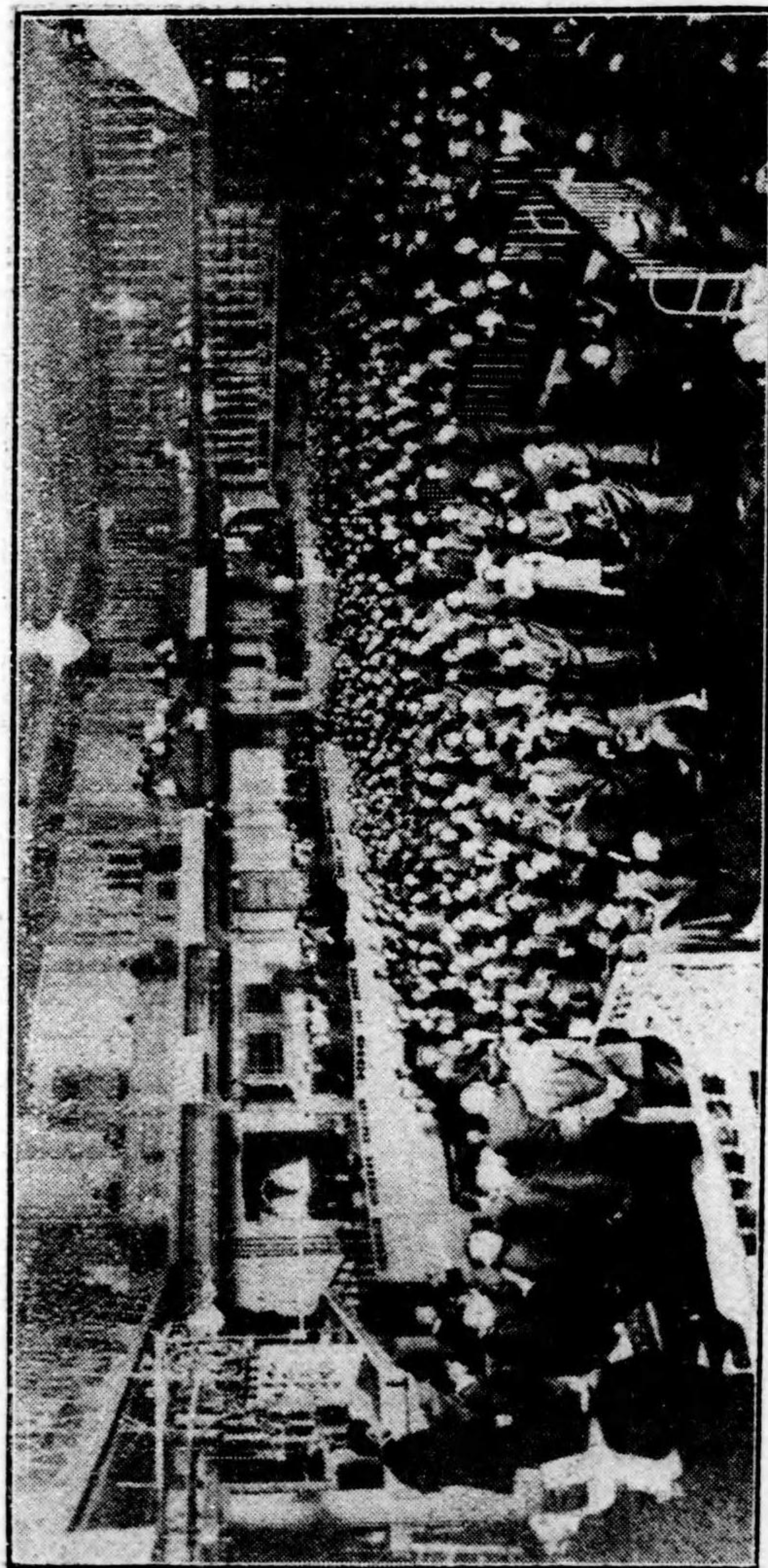


東 京 株 式 取 引 所





東京株式會社買賣成功會長
伊藤龜治郎



東京株式會立所引取光景

營業課目

有價證券現物賣買
有價證券擔保貸附

進呈

營業案内
電信略語表

東京市日本橋區坂本町拾八番地

公債株式現物問屋

キツボウカ
木

桐生屋株式店

電話 浪花

長長
二二
五五
二四
一五
五五
一三

振替口座東京三五一〇五八五九〇番
電信 受信略號(トウケイ)ヤマトツキ
發信略號(キリフ)又(キ)



主店株式生桐
郎三源野天

目次

鞘の妙味

銀行預金などは比較にならぬ……………七

僅かの資金で澤山に儲かる

たしかにうけ合ます……………一九

乗すべき好機は今!!

どんな株を標準にすればよいか……………二五

利廻りよき方法

研究して御覧なさい……………三三

どんなに儲かるか

勘定して御覧なさい……………三六

多数は勢力である

一刻も早く御加入をすゝめる……………四二

會則

どうしたらば金が儲るか?……………五二

序

我國の經濟界は歐洲戰亂の御蔭で急速に其の實力を加へ
今では有價證券の總價額實に百億圓と云ふ目醒しい景氣
と成つた、従つて株式相場で成金になつた者も澤山出來
た、此戰爭は果して向後何時迄續くかは今日の場合容易

に推測は出来ないが、この分では我株式界は將來益々隆昌を加へる事であらうと確信する、此際に於ける我々が致富利殖の早道は株式の鞘取商内に限るのである、この鞘取は其利廻りの非常によく又頗る確實なる利殖の最良方法で、殊にこれからの株式界は益々波瀾を演じ騰落の變動多かるべきの秋、従つて鞘開も亦擴大することであ

るから、この好機會を利用し大に金儲をしなければならぬ、幸ひ私共は過去拾數年來株式取引業に従事し非常の熱心を以てこの道を研究し、所謂相場道の真相を窺ひ知る事が出来たが其の結果現株の賣買は別として、彼の定期の思惑相場なるものは實に危険千萬である事を知り得たと共に、一面この鞘取商内が利殖萬全の良法である事

を確め得たのである、爰に私共は東京株式賣買成功會と稱する鞞取専門業を開始して只管ら諸君の爲めに、成功致富の指導者たらんと決心したのである、而して共に金を儲けると云ふのが私共の主義であるから、願くは、迷はず、躊躇せず、本會の主旨を賛成し堅實なる思想の下に着々大成を期し安全に富を作るの捷徑に向つて進まれ

ん事を熱望するのである。

丁巳仲春

於楓江千代田橋畔

桐生屋株式店調査部

- ◎金儲けの近路は現株賣買に限る
- ◎現株賣買は確實安全なる實業なり
- ◎確實なる現株を所有するは家屋地所よりも有利なり
- ◎遠隔地に於ける定期取引は危険の時勢となれり
- ◎定期證據金位の額で立派に現株賣買が出来る
- ◎頭金(手附金)株代金の四割額を前送すれば直ちに荷爲替も組み又殘金の立替も致します
- ◎現株で金入用の御方は極低利で世話す

確殖的 成 金 讀 本

鞆の妙味

|| 銀行預金などは比較にならぬ ||

株式の定期取引は、主として先物の取引であるから其の受渡期日を當限、中限、先限の三期と定めてある、即ち

當限たうきりとは其その賣買約定はいくやくちやうをした月つきの末日まつじつに受渡うけわたを結了けつれうする
のであつて、中限なかきりは賣買約定はいくやくちやうをした翌月よくげつの末日まつじつに又先限またさきり
は其翌々月そのよくくげつの末日まつじつに受渡うけわたを了をはるものである、従つてこ
の三期きの相場さうばは同一どういでない、この三期きの相場さうばの差額さかくを俗
に鞞さやと云いふのである、相場さうばが當限たうきりより中限なかもの、中限なかものより先
限ものと漸次ぜんじ上鞞じやうさやなる場合あひを順鞞じゆんさやと云いひ、ある特殊とくしゆの事情じじやうに

よりて之これと反對はんたいになる場合あひを逆鞞ぎやくさやと云いふ。
それから現株げんかぶと定期ていきとの差價さかも同じく鞞さやである、又東京
株式取引所かぶしきとりひきしよと大阪株式取引所おほさかかぶしきとりひきしよとの間あいだに生ずる差額さかくも亦鞞またさや
であつて、つまりこの鞞さやなるものは相場さうばのある限りかぎ、群
衆心裡しゆしんり、其他種々そのたしゆくなる事情じじやうのもとに時々刻々ときとく變幻へんげん極きくまりな
いもので相場界さうばかい獨特どくとくの妙味めうみを有いうするものである、鞞取商さやとりあき

内はこの値鞘を收得する目的で放資するのである、鞘取に三種ある

一、現株と定期との鞘取

二、定期當、中、先の鞘取

三、甲地と乙地との鞘取

(一) は現株を買付けると同時に定期に賣付け限月に至り

其の株を渡すか又は更に中限若くは先限に乘替へる方法で至極簡單で又最も確實である。

(二) は例へば二月(當)限が七十一圓五十錢、三月(中)限が七十三圓三十錢、四月(先)限が七十四圓二十錢の場合即ち七十一圓五十錢の當限を十株買つて先物の七十四圓二十錢を十株賣りて其差即ち十株で二十七

圓を儲るので鞆が接近する場合は賣買双方を同時に手仕舞ひ、又限月に至るも鞆の接近しない場合は受渡を實行するのである、

(三) は東京及大阪兩取引所に於ける相場を比較して見て割安なるが故に大阪を買ひ、高値の東京に賣ると云ふ様な方法である、

以上三つの方法は皆な相場の波瀾を利用するに止まり、相場の居所の如何に拘はらず、鞆さへ開けば賣買兩建をなすものなれば、是れ決して投機ではない、丁度普通の商品を仕入れて或る期間後に賣ると同じわけで、其資金の運用を敏活にすれば、非常に割よき安全確實なる利殖法であるから地方の資産家などの遊金活用法としては絶

妙の良策である。

この靴取商内の純益は優に市場に於ける日歩以上の利となるから時には日歩を以て資金を借り受けても尙ほ儲るので、銀行、保險會社又は富豪なども盛にこの方法で靴取をして居る。此の確實安全で屹度儲かるに極まつた靴取商内も實際的に相當の成績を擧げるには、大資本と經

験が要るので、本會は諸君の爲めに最も完全なる機關となり、全力を盡して常に敏捷なる觀察力を以て堅實に致富の法に努めるのである。

靴は如何なる事情によつて生ずるかと云ふに、元來相場界には常に賣方と買方とあり、利廻りの算盤に重きを置く探算家と、經濟界の趨勢等を考察して見込を立てる理

想家きやうこの二者しやがある、各々利益りえきを目的もくてきとしながら、市場しぢやうの情勢じやうせいに依り利潤争奪りどんきやうだつの爲めには、自然しぜん算外さんぐわいの大靴おほまやを買かつたり、算外さんぐわいの薄靴うすざやを賣うつたりするので、従つて其戦そなたかひの間あひだに不自然ふしぜんの靴まやを生しやうずるのである、靴取商内まやとりあきないは、之これを利用りようして巧たくみに儲まうけるので、大だいなり、小せうなり、屹度利益きつどりえきあると極きままつたものである。

尙ほ之これを利廻りりまはの上うへから観れば靴取まやとりは迎むかへも不動産ふどうさんや銀行ぎんかう預金等よきんとうとは比較ひかくにならない、夫れは平時へいじの株式市場かぶしきしぢやうですら五錢日歩せんひぶ、近來きんらいの様やうに亂高下らんかうげの時ときには優いうに二十錢せん乃至ないし二十六七錢日歩せんひぶを下くだらないのである、諸君此しよくんこの生存競争せいぞんけうきやうの激はげしき社會しやくわいに、農業のうげふや月給取げつきよとりで一生しやうくる苦しみ稼かせいで貯たくめた所ところで果はたして幾何いくらの金かねが蓄たくめられるであらうか、今日こんにちは

黄金萬能の世の中で、金がなければたとひ立派な人格の
人でも人が相手にしないのが常である、只だ徒らに何か
甘い金儲はないかと空想して居るばかりでは駄目である
實に今や世界未曾有の大戦亂の爲め向後の株界は益々盛
況を呈するの時、私共一生の申に二度とこんな金儲の好
機會は來ないのである、この鞘取の有利にして安全確實

なるを知られたなら一刻も早く入會して實行せられたい
勇氣と實行とは成功の基である。

僅かの資金で、澤山に儲かる

|| たしかにうけ合います ||

株式の鞘取を、直に實行しやうと思つても、即ち資産家

には勇氣と經驗なく、逆境の人には大切の資金がない、是等の人々の爲めに便宜を計りたいのが私共の目的であるから、諸君が如何に無經驗でも、多大の資産家でなくとも決して差支はないので、僅少なる資金で入會せらるれば、私共は諸君の爲めに忠實なる代理者として活動するのである。

株式相場に關係すれば、必ず損をするもの、あぶないもの、譯も判からず眉を顰める様な古い頭の人でも困るが、又金儲の近道は投機に限ること早合點して俗に云ふ濕れ手で粟を握む様な淺薄な考へで、新聞の相場欄や氣配表のみを標準にして定期の思惑相場に手を出したら意外の大失敗を招くに極まつたものである、私共の知つて居

る人々の中でも相當の學識もあり、株式市場の實情に明
かるい人でさへも、往々大損耗をして身の措き所に困つ
て居る様な者が澤山あるは、何よりの證據で、定期の思
惑は危険極まるものであるから、決して素人の爲すべき
ものでない事を茲に斷言する。
これと反對に株式相場の間道を行く鞘取は全く失敗の恐

れなく、眞に安全、確實なる金儲の秘法である。殊に現
今は鞘取には實に逃へ向きの時で、低落の時代、保合時
代に比べるに數割以上の利得がある、なせなれば騰貴時
代は買ひ逸る結果、當限より中限、中限より先限と鞘開
が擴大するから時々破格の大鞘が飛び出して、採算家に
乗すべき機會を與へるからである、一体鞘取は人氣の裏

を搔き人情の弱點を覗ふのであるから、自然利益の多い
時こそ少い時がある、近來は諸株共向上騰貴し、將來益
々昂騰する情勢であつて、固より日清、日露戰役後の様
な空騒ぎはなく、今や年額四億萬圓の輸出超過てう、空
前の大盛況で金融緩慢は一時的の事ではなく、全く實收入
より來たれる健全分子の凝結で、決して急激に變動すべ

きものでないから、私共はこの際充分精密なる注意を拂
ひ、時機に適應した商策を施したなら、必ず偉大なる良
績を收め得る事を確かに保證するのである。

乗すべき好機は今!!

|| どんな株を標準にすればよいか ||

株式の鞘取は幾何の鞘を標準とし、何種の株を標準とす
べきかと云ふに、其れは常に取引の頻繁なる株式に着目
せねばならぬ。先づ當市場で標準株と稱する所の、東株
郵船株、大阪商船株、鐘紡株、日清紡績株等は恰好な株
であるが、これ以外の雑株は、假令鞘は多とも要するに
一時的の相場で、賣買を消化する能力なく、自己の賣買

によつて忽ち鞘の激變を生ずることになるから、若し端
株の鞘取をやるとすれば成るべく少數に止めなければな
らぬ。標準株は常に賣買頻繁で其の理想と挑戦が頗る激
烈であるから如土の憂なく、容易に實行し得て確實に利
益を保證されるのである。又鞘の標準は東株の一ヶ月を
隔て、二十五圓以上の鞘ならば何時賣買を斷行しても差

支ない、近來の如き市價を保つ時代には鞞開きが大きい
ので拾圓擲以下の鞞は永く續くところが少ないから、ソ
ナ時には見合せ、少くも二十圓位の開を見るまで、待た
なければならぬ、兎に角たごひ僅かでも鞞が多ければ、
夫れだけ利益になるのであるから、鞞關係に付ては是非
觀察力と云ふ事が必要である。

思惑の様に多方面に眼を配る必要はないが、人氣の如何
は觀なければならぬ、即ち鞞が擴大すると觀たなら暫
く待て、人氣が極度に達した時を目懸けて實行すべきで
ある、私共の實驗上月初めが何時も鞞が大いに開く時機
で夫より漸次縮少するのが普通である、要するに月初め
は新甫の發會であつてや、ともすると、人氣が一方に偏

する言の偏すると云ふとは人情の弱點を示したもので
發作的に、深く採算を顧みないと云ふとに原因するので
ある、故に鞘取は月初めに實行することが平均利益であ
る、勿論この前例のみを以て推すことは出来ないが、つ
まり相場には相場癖がある、固より一時的流行性ではあ
るが、鞘は前場に短縮して後場には擴大することがある

而かも時に之を數日繰り返す實例に乏しくない、鞘取を
するには常に能く人氣の表裏、鞘の周圍に於ける状態等
眼前の問題を冷靜に判斷し、少しでも大きい鞘に放資す
る様にし、輕卒な不自然なる賣買を避けなければならぬ
鞘は年中いつてもある決して焦せるに及ばない、鞘取は
元來が零細の利を積むのが目的であるから、これを爲る

ものは終始此考を以て市場に臨まなければならぬ、尙ほ
現今株式の鞆が擴大に向つて居るのは全く時代の反響で
あつて、採算家なる者の大に乘すべき好時機である。

利廻りよき方法

|| 研究して御覽なさい ||

株式の採算には二種ある

(一) は甲株が乙株に比し割安又は割高といふ採算で素人
側が常に唱へる

(二) は日歩利率の方面より打算したる數字上の關係で、
立人側所謂鞆取屋の注目する所である

二者何れも數字上の採算ではあるが、(一)の方は往々外

れ易い、それは割高の甲株が更に騰貴し割安の乙株が益々低落することがあるからである、(二)の方は鞘取上の採算であつて動きはない、例へば郵船株の鞘取は日歩五十銭に過ぎないが、東株は八十銭になる云ふ採算である、されば鞘取は先づ各株式の鞘開に注意し少くとも利廻りのよい株式に放資しなければならぬ、尤も雑株は前

述べた通り、表面の鞘は多くても實行上注文を消化し難き事情があるから、大体は標準株に重きを置き其他は充分眞想を確めた上にしなければならぬ、併しながら破格の大鞘が一轉して逆鞘を示す云ふ様な事は、雑株によくあること故、能く機敏に活動すれば、却つて雑株の鞘取でも短時日の間に、意外の奇利を博するところがあるか

ら、雑株ざつかぶごても敢あへて度外視どぐわいしすべきものではない、株式かぶしき鞆たば取とりの趣味しゆみは實じつに恚いかういふ所ところにあるので、恐おそらくは諸君しよくんの想像さうざう以外いぐわいにあるのである。

どんなに儲かるか

|| 勘定かんぢやうして御覽ごらんなさい ||

今試いまこころみに大正五年たいしやう ねん十二月中ぐわつちゆう(半ヶ月間はんげつかん)に現あらはれた鞆たばを示しめせば實じつに左ひだりの通りとほりで、此表このへうによれば平均優へいきんいうに二十圓ふん いじやう以上の純益じゆんえきとなる。

東京株式取引所株

日	當限	中限	先限	當中鞆	中先鞆	合計鞆
一日	四二五、〇〇	四三三、〇〇	四三九、九〇	一八、〇〇	六、九〇	二四、九〇
二日	四三六、〇〇	四五〇、一〇	四六〇、五〇	一四、一〇	一〇、四〇	二四、五〇

四	日	四三七、〇〇	四五五、〇〇	四六七、〇〇	一八、〇〇	二二、〇〇	三〇、〇〇
五	日	四四二、〇〇	四五六、九〇	四六六、九〇	一四、九〇	一〇、〇〇	二四、九〇
六	日	四二七、一〇	四四二、〇〇	四五二、〇〇	一四、九〇	九、〇〇	二三、九〇
七	日	四二四、〇〇	四三八、〇〇	四四三、五〇	一四、〇〇	五、五〇	一九、五〇
八	日	四四、九〇	四四、五〇	四三二、〇〇	九、六〇	七、五〇	一七、一〇
九	日	四〇六、〇〇	四一五、〇〇	四二五、〇〇	九、〇〇	一〇、〇〇	一九、〇〇
十	日	三六二、〇〇	三七四、〇〇	三八〇、〇〇	一三、〇〇	六、〇〇	一八、〇〇
十一	日	三六三、〇〇	三七五、〇〇	三八四、九〇	一三、〇〇	九、九〇	二一、九〇
十二	日	三六三、〇〇	三七五、〇〇	三八四、九〇	一三、〇〇	九、九〇	二一、九〇

尚ほ本表の外に當期は年三割の配當ありたるも加算せぬ

東京株式取引所株當時現株時價四百圓、即ち拾萬圓で二百五十株を買入れ、平均二十圓利鞘の割合を以て打算すれば、左の如く、一ヶ月より二ヶ月の賣買數量を遞増して實行したなら、利益膨脹して、一ケ年の終りには年八割近くの儲けとなり、尚ほ之を連續實行して三ケ年後に至れば、最初の資金の七倍餘に達する計算となるのは事

實である。

東京株式賣買成功會は三ヶ月毎に利益を配當する規定なれば左表に準據して賣買し能はざるものなる事を承知ありたし

月次	放資額	建株	一ヶ月ノ利益	利益通計
○	十萬圓	二百五十株	○	○
一	十萬圓	二百五十株	五千圓	五千圓

二	十萬四千圓	二百六十株	五千二百圓	一萬二百圓
三	十萬八千圓	二百七十株	五千四百圓	一萬五千六百圓
四	十一萬二千圓	二百八十株	五千六百圓	二萬一千二百圓
五	十二萬圓	三百株	六千圓	二萬七千二百圓
六	十二萬四千圓	三百十株	六千二百圓	三萬三千四百圓
七	十三萬二千圓	三百三十株	六千六百圓	四萬圓
八	十四萬圓	三百五十株	七千圓	四萬七千圓
九	十四萬四千圓	三百六十株	七千二百圓	五萬四千二百圓
一〇	十五萬二千圓	三百八十株	七千六百圓	六萬一千八百圓

一一 十六萬圓 四百株 八千圓 六萬九千八百圓
 一二 十六萬八千圓 四百二十株 八千四百圓 七萬八千二百圓
 建株通計四千百六拾株 此利益七萬八千二百圓内手数料六千六百五十
 六圓差引純益金七萬壹千五百四拾四圓也

多數は勢力である

一刻も早く御加入をすゝめる

株式の鞘取商賣で、確的に金を儲るには、少なくとも五千
 圓以上の資金が要るので、この鞘取商内の有利なるを知
 りつゝ、見すゝ之をやることこの出来ぬ人が多い、従つ
 て此の有利な方法は一部の有力者にのみ獨り占めにされ
 て居るのは、實に私共の遺憾とする所である、私共は之
 を黙視するに忍びず、奮然起ちて爰に東京株式賣買成功

會を設立し、諸君の零細の資金を集めて普く利潤の均霑を確期しやうと考へた、本會はその細則に述べた如く、何人にも容易く入會する事が出来る、又其經營方法に就ては私共が多年株式業に従事して得たる經驗を根本として、忠實熱誠に精勉して、諸君の期待を充たさうと思ふのである、彼の毛利元就の訓誡の如く、一本の矢より三

本の矢は強い、又泰西の諺にも多勢は勢力であると云はれてある、私共はこの意味から廣く諸君にお勧めして、完全強固なる一の團體を作り大なる抱負を以て益々會務を擴張盛大にし、諸君の立派なる經濟機關となし尙ほ一層進んでは株式組織とし、永遠に其福利を頒たうと思ふのである、願くは此際迷はず、躊躇せず直ちに御入會あ

らん事を切にお勧めするのである。

會 則

第一條 本會ハ東京株式賣買成功會ト稱ス

第二條 本會ハ東京株式取引所ヲ中心トセル諸株式ニ就キ相場ノ鞘取並賣買ヲ爲スヲ以テ目的トス

第三條 本會ノ所在ハ東京市日本橋區坂本町十八番地桐生屋株式店內ニ置ク

第四條 株式ノ賣買取引ハ本會ノ役員ニ一任スルモノトス

第五條 本會ハ左ノ役員ヲ置ク

會長

伊藤龜治郎

會計主任 桐生屋株式店主

天野源三郎

理事

法學士 檜垣精三郎

第六條 本會ノ出資ハ一口金壹百圓トシ之ヲ五十口(金五千圓)ヲ以テ一組トシ「A、B、C」ノ順ニ應ジ組織スルモノトス

第七條 一人ニテ數口出資スル事ヲ得

但シ二人以上合同シテ一口ノ出資ヲ爲ス事ヲ得

第八條 本會ノ出資ハ現金トス

第九條 出資五口(金五百圓)以上ノ者ハ特ニ資金代用トシテ左記有價証券

ヲ承認ス

東京株式取引所株

日本郵船株

大阪商船株

鐘淵紡績株

日清紡績株

第十條 出資代用ノ有價證券ハ時價ノ七掛ニ見積リ其融通金額ニ對シ日歩

金壹錢五厘(一日金百圓ニ付)ノ計算ヲ以テ決算配當期ニ於テ控除ス

但シ價格低落ノ場合ハ直チニ相當填補スベキモノトス

第十一條 本會ハ出資金到着ト同時ニ領收證書ヲ發行ス

第十二條 役員ハ場合ニ依リ自ラ會員トナリ一組ノ資金ヲ填補スベク相當

出資スル事アルベシ

第十三條 會員ハ出資後三ヶ月ヲ經過セサレバ退會スル事ヲ得ズ

第十四條 本會發行ノ領收證書ハ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ擔保ニ入ル、事ヲ得ズ

第十五條 退會者ノ權利義務ハ役員ニ於テ之ヲ繼承ス

第十六條 退會者多數生ジタル組ハ解散シテ他ノ組ニ編入スルコトアル可シ

第十七條 退會者ニ對シテハ届出受付後十日以内ニ精算返金スルモノトス

第十八條 本會ハ各組成立後三ヶ月目毎ニ決算シ利益配當ヲ爲ス

第十九條 配當計算ハ純利益金ノ十分ノ五ヲ役員ノ所得トシ残り十分ノ五

ヲ各出資額ニ按分配當ス

第二十條 賣買取引ニ際シ資金不足ノ場合ハ一時他ヨリ資金ヲ融通スルコトアルベシ

但シ利子ハ該組全員ノ負擔トス

第二十一條 會員ハ何時ニテモ取引狀態並帳簿ヲ閲覽スルコトヲ得但シ隔地ニ對シテハ決算毎ニ報告書ヲ送附ス

第二十二條 本會ハ各出資額ニ對シ利益配當額最低年二割ヲ保證ス

第二十三條 本會ノ存續期間ハ之ヲ制定セズ

注 意

送金ハ總テ桐生屋株式店宛ニテ御送附願度其方法ハ電信爲替、銀行爲替又ハ振替口座(東京三五〇五九番)何れにても差支無之候

(52)

入會申込書

一 今般私儀貴會々則ニ從ヒ株式賣買資金トシテ
金 圓也(口)相添へ入會仕候間
可然御處置相成度此段申込候也

大正 年 月 日

住所

氏名

東京株式賣買成功會御中

ました一人であるが、今にして考へると、餘りにむづかしく考へ過てゐたからで、元來金儲と云ふ事は、決して人々の考へつゝあるやうに、そんなむづかしい事でない少しく熟考すれば、何人にも容易に出來得る事である、私共に云はせるごと、金儲の秘訣は只至極簡單なる二つの條件、即ち金の運用と、其方法とに盡きて居ると云たい

のである、斯ふ云ふたならば、諸君の内には、餘りに幼稚な空言として、私共のこの言葉を却つて笑はれるかも知れないが、世の中の凡ての事は、決してそんな複雑な面倒なものではない、あの我々が世界に誇る富士山でさへ、近寄つてよく見たならば、何等變りない唯の山である、今更多く説く必要はないよくこの意味を、味は

つて見たならば、私共の云ふ事が決して詐りでない事が
直ちに氷解さるゝであらう。

營業課目

有價證券現物賣買
 有價證券擔保代理貨附
 社債株式募集一般信託事務
 財政、金融、經濟界並ニ會社內情ノ調査事務

商標



(ヤマボツキ)

店名

桐生屋株式店

所在

東京市日本橋區坂本町十八番地

店主

天野源三郎

電話

浪花

長二一五三番
 長二四五一番
 五二八〇番

振替

東京三五〇五九番

受信

(トウケイ、ヤマボツキ)

發信

(キリフ) 又 (キ)

桐生屋株式店顧問

東京市京橋區木挽町一丁目

紀伊國橋角

辯護士 淺井 恒

電話京橋二四二七番

大正六年三月十四日印刷
大正六年三月十八日發行

不許復製

編輯所 發行所 印刷者 印刷所 發行所

定價金八拾五錢

桐生屋株式店調查部

天野源三郎

東京市京橋區新富町一ノ六

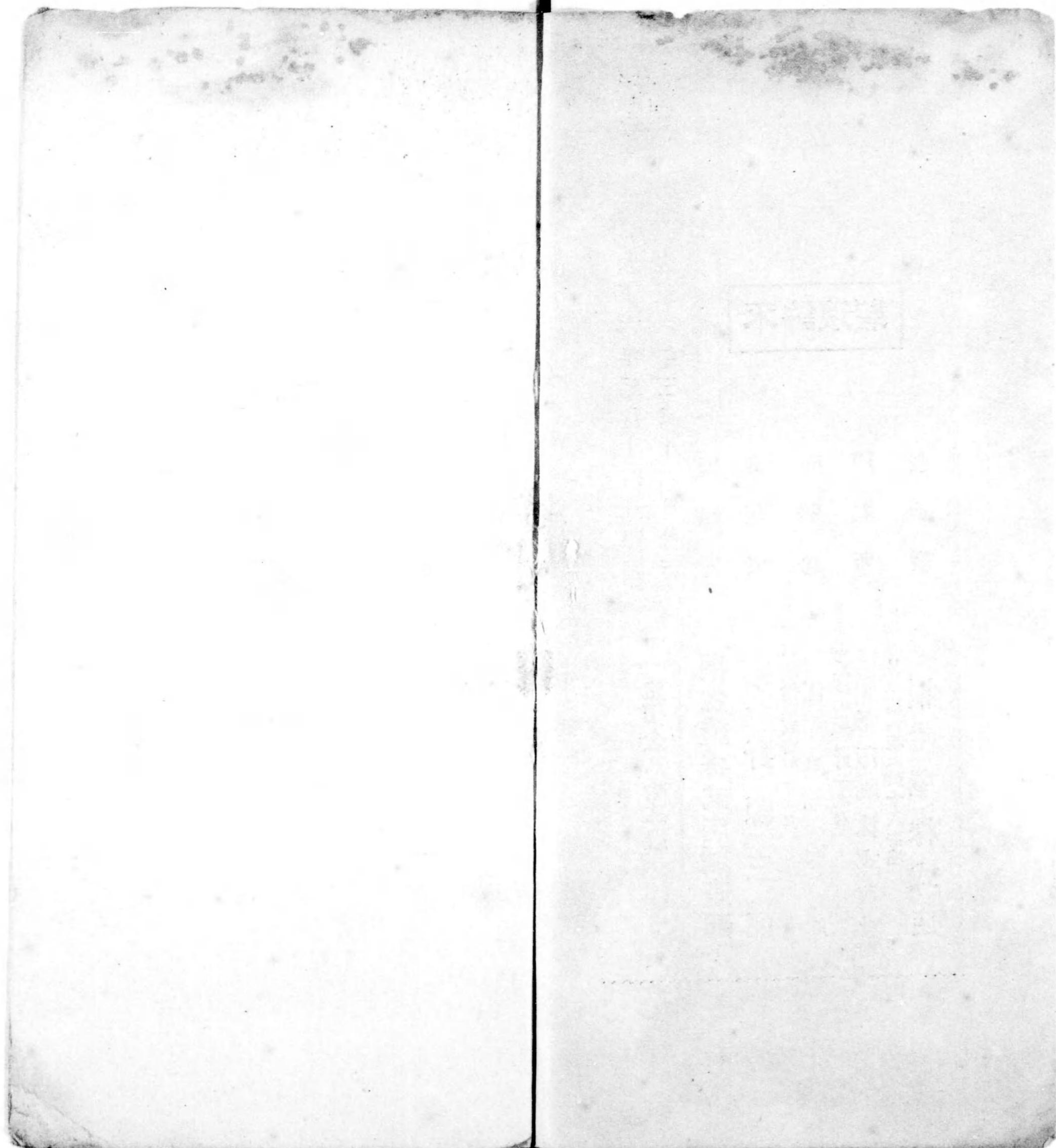
江澤三郎

東京市京橋區新富町一ノ六

明正印刷株式會社

東京市日本橋區坂本町十八番地

桐生屋株式店



終

